さっぽろ天神山アートスタジオ 2018-2019
管理運営業務企画提案書

（1）企業又は団体名

一般社団法人 AIS プランニング

（2）類似業務の実績

【施設運営】
〇さっぽろ天神山アートスタジオ管理運営（2014 年～現在も継続中）

〇札幌市資料館での SIAF ラウンジ及び SIAF プロジェクトルームの管理運営（2015 年～現在も継続中）

【市民交流事業の企画・コーディネート及び運営】
〇アーティスト・イン・スクール事業（2005 年～現在も継続中）

【アーティスト・イン・レジデンス事業】（＊以下、AIR ディレクターの実績）
〇MOVE ARTS JAPAN WEB サイトの運営・調査・研究（2011 年～現在も継続中）及び京都府でのアーティスト・イン・レジデンスの設立コンサルティング（2016 年～現在も継続中）

〇NPO 法人 S-AIR（札幌市／2003 年～2008 年）、アーカスプロジェクト（茨城県／2010 年～2011 年）などのアーティスト・イン・レジンス事業のディレクション及び地域プロジェクトの企画・運営、文化庁 文化芸術の海外発信拠点形成事業協力者会議　審査委員会委員、京都府 アーティスト・イン・レジデンス芸術祭委員会委員

（3）札幌市内に有する貴社の事務所の体制及び人員

代表理事　1 名
理事　1名
常勤職員　6名
非常勤職員　3名　計 11 名
ボランティア及びインターン　約20名
＊2017 年 12 月現在

（4）実施方針

＜基本方針＞
【グローバルな視点を持つ、超ローカルな活動～さっぽろ天神山アートスタジオは、誰もが当事者になるための装置】

・ 弊社が運営する既存事業及び新規の市民交流プログラムで培ったコーディネートノウハウを活かし、札幌市民一人ひとりが、創造性を発揮し、生活、文化、産業、そして札幌の街に変化や活気をもたらす当事者として集い、「創造都市さっぽろ」が目指す都市の成長を支えていく市民の主体的な活動の受け皿、生き甲斐を発動できる場と機会を提供する。
・ 発表の場ではない制作の場である施設の特性を活かし、日常生活から鑑賞レベルまでの広い領域で文化芸術活動と市民の接点をつくる。すなわち、人と人、アイデアや作品との出会い、創造活動への参加など交流の機会をコーディネートする。
・ 国内外のアーティストやアート関係者の自由且つ創造的な活動を支援する専門人材（AIR ディレクター及びコーディネーターなど）を配置し有意義な滞在環境を提供する。
・ 施設利用の誘致活動を通じ、札幌市内のアート団体、関係者への支援を行い良好なローカルネットワークを構築する。
・ 都市の優位性に、国際言語であるアーティスト・イン・レジデンスのしくみをリンクさせ、質の高いアーティスト、プロジェクトの誘致を計る。同時に、国内外を対象にした文化外交、ボーダレスなネットワーキング活動、国際広報活動を行い、札幌市の PR 戦略に寄与する。
・ 天神山アートスタジオの立地を最大限に活かして、近隣地域、天神山緑地との協働や連携する。芸術文化の視点による地域資源の発掘と魅力の発見を行い、公園や地域の付加価値を押上げ、地域のにぎわいつくりの一端を担う。
・ 2018 年度は、上記方針を基本とし、過去4年間に培った運営ノウハウとネットワークの実績を活かして、既存のシステムに捉われないアートプロジェクトの公共性、多様性を拡張する柔軟な姿勢に基づいた弊社独自のコーディネーション力を発揮し、さっぽろ天神山アートスタジオが人の往来、関係性を実体化していく装置として機能して行くことを目指す。

【2014 年からのプロジェクトダイレクション】

Save Your Energy, Do it Yourself ＝施設、人、地域資源をリサーチし、“場”の性質をこれまでのものから変えてみる＝
新しいものの見方、捉え方をアーティストはよく知っている。既にある資源を新しい視点でとらえなおして（新しい価値を与える）、しっかりと活用すること。

大きな家からみんなの公園へ ＝なにをやるか、ではなく、どうやるか＝
施設維持や管理（拠点）のみが重要なのではなく、この場所で起こる出来事、活動そのものがより重要です。新しい風景を創るプロジェクト宣言。ハード運営（公共施設管理）だけではなく、施設運営を含んだソフト事業（アートプロジェクト）。

Alternative life in Sapporo for People and Artists ＝日常の延長上、または平行して存在する非日常を体験する＝
札幌の人々と、アーティストが、新しい生活、暮らしを試してみる特別な場所ですよ。札幌の人とアーティストと私たちとで新しい生活の風景を作っていきましょう

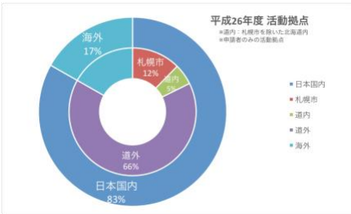
みえない橋をかけ、みえる橋にする。そして、その橋を渡る。
アーティスト・イン・レジデンスとはなにか、シンプルに表現すると「人間関係をつくる」ことです。
天神山アートスタジオは、アーティスト・イン・レジデンスを基軸に、コーディネーターの工夫によって、これまでの3年間でたくさんの人間関係をつくってきました。4年目はまだつくれていないところに、まだ出会っていない人たちともっとたくさんの関係をつくり、できあがった関係を礎に、未来への手応えと変えて、5年目へと向かいます。

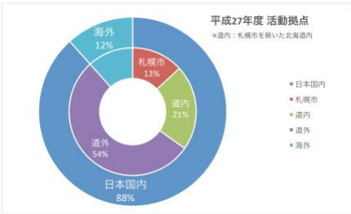
(5)企画提案-1

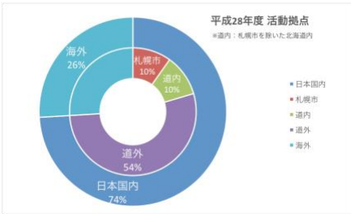
【提案内容:参考資料】 ＊このデータは、滞在スタジオ申請の記録をもとに算出したものである。

(1)利用者数推移と活動拠点割合 2014-2016

年度	2014/H26年度	2015/H27年度	2016/H28年度
人数	179	404	416

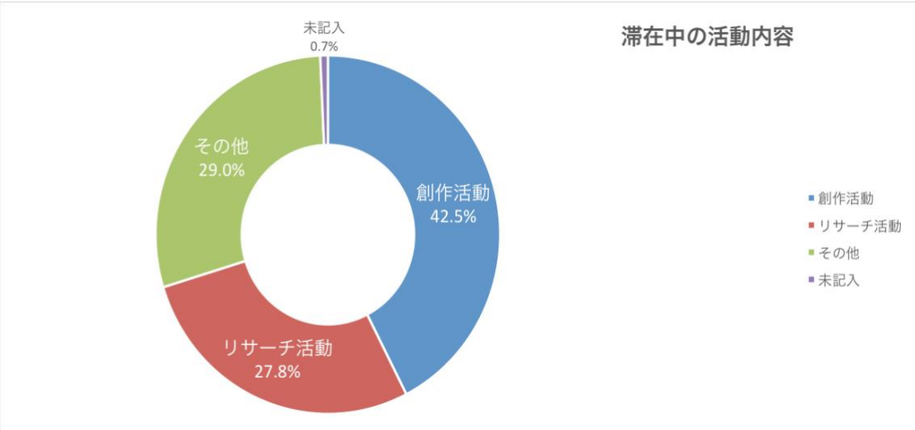






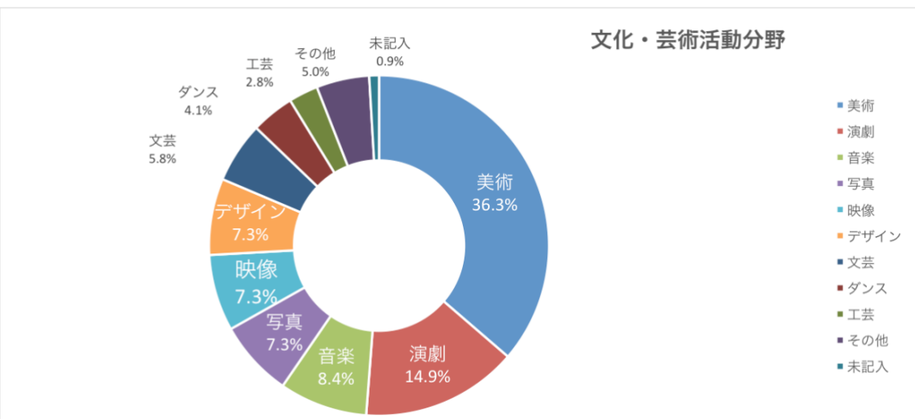
滞在スタジオ利用者数は、3年間で179名から416名に伸びた。4年目の2017年度は500名を超える見込みである。そうした中、特に3年間で海外からの利用者が9%増加したことに着目。実績では、国内外比は26:74であるが、利用者一人当たりの滞在日数を照会すると、海外拠点の利用者は長期滞在が多く、年間を通して館内及び周辺地域で外国人が日常的に「いる」風景が広がったため、国際的な施設との印象を市民に強く与えるようになった。市内には公立文化芸術施設で国際性が強調されている事例は多くない当館には、スキルと実績の蓄積が始まっている。この点は、オリンピック招致や、創造都市の市策、国際展開催の際に当館のネットワーク、コーディネート力を活用できることを意味する。滞在日数が多い＝中長期滞在利用者のほうがよりコーディネーターとのコミュニケーション量が多くなるため、低予算による館内・館外での交流プログラム実現することができた。滞在日数が多ければ制作・リサーチ活動の過程においても個人、市民や団体との協力や支援を含んだ交流がめばえやすく、より深い関係構築が可能となるため、将来的で多様な活動展開の件数増加に反映され、市内のアートシーン活性化、文化芸術事業件数の増加に貢献しているといえる。

(2)利用者の滞在中の活動(2016/H28年度)



当施設は、技術専用の工作室を所有しないものの、特別な機材、工房を必要としないタイプのアーティストの制作に不自由は少ないようだ。さらに、工房的要素よりも滞在的要素として整備されたスタジオ環境に合わせ、北海道という独特の歴史と気候といったリソースに惹かれてリサーチ目的で滞在する利用者割合の高さに着目すべきである。ここで「さっぽろ天神山アートスタジオ」のポテンシャルや使命が利用者によって自ずと見出されている様子が現れている。「その他」の割合が高いが、この中身は「札幌市内の別事業者による文化芸術事業に参加するための利用目的が多く含まれる。このことは当館が利用されることにより、市内多くの文化芸術事業を経済を根底でサポートしている実態といえよう。この点は公的なAIR拠点としては、最重要であり、市内で開催される文化事業の広く事業インフラとして機能することの証明にほかならない。このことから、AIR拠点は文化政策においても相応の位置付けを置かれるべきである。(市内民間ホテルとの料金比較を参照のこと)

(3)利用者の活動分野(2016/H28年度)



国際的なAIRの分野割合と同様に「美術(ビジュアルアーツ)」分野」の利用者が多く見受けられる。国内の他AIR事業では、特定の分野に限定している事例が多い。その現状から受入範囲を全分野としている当施設は国内では珍しいタイプだと考えられる。実態として、利用者の活動をサポートするコーディネーターの専門分野は全分野を網羅しておらず限定される。しかしながら、当施設の利用者は市内ほか事業者による招聘者利用も2割強あるため、コーディネーターが全分野を網羅する必要も現在のところはない。利用者のフィードバックによると、多岐にわたる分野の活動者が同時に施設に滞在していることが、最も高く評価されている。当館では利用者同士の情報交換や将来的なコラボレーションが多発しており、この点が当館を「活動的である」「利用する甲斐のある」AIRだと高く評価されている理由となっている。

来館者のコメント

_2017年度アートアンドブラックファーストデー参加者へのアンケート回答より転載

<u>2014-17年度来館者数推移：5,197人→5,673人→6,602人</u>

「多種多様な素敵な人々との交流がなによりもの財産になります。」

「色々な人と知り合えて楽しい」

「楽しい、面白い。いろんな"濃い人たち"が集う場。これから自分がやろうとしていることにヒント材料がたくさんあり参考になります。」

「外国の方や、その時参加されている方など老若男女さまざまな人と出会え楽しいです。パン作り好きなので作ったものを喜んでいただけてよかったです。」

「性別・年齢の差がく国内外問わず交流でき益々老いていられなく皆様に元気を頂いています。」

「色々な方と交流する事ができ、アットホームな雰囲気でとても過ごしやすく様々な発見のある場所でした。」

「アーティストと直接交流できるので、色々な話が聞けて楽しい。時には外国語の勉強もできる！」

「学生にとっては海外の人々と交流できるのですごくよい経験になると思います。近隣の大学にも宣伝したらよいと思います。」

「ごはんを食べながら、初対面の人たちといろんな交流ができて、すごく刺激のあるもので楽しかったです。また参加したいなと思いました。」

「いつも楽しく参加させていただいています。アーティストトークが楽しみ。」

[参加したあといつもあたたかい気持ちになる」

(5)提案内容-2

企画提案の前提:

2014 年度から4年間にわたり実施してきたしくみ・イベント/プログラム企画は、大きな方向性として 2014 年度から AIR デイレクター小田井が提案し、示している「アーティスト・イン・レジデンス拠点として運営する」「施設管理業務も含んだパブリックアートプロジェクトとして運営する」という我々の基本的な姿勢と精神及びスキルに基づくものである。

この新しい施設が他都市類似施設活動に並び存在感を示すために、運営を担う私たちの専門的な知見と経験と気概によって、人員配置と予算フレームを超え、内容を精査し膨大な件数のプログラムとイベントを実験的に行ってきた実績がある。まずは「能力と体力の限りできるだけあらゆるやり方を試して、この施設と活動の国内、国際的な知名度をあげよう、利用者(アーティストと市民)に愛される場所と活動になろうと人員も見合わないけれど予算も度外視してまずは走りだそう、がんばってやってきた」こと、札幌市には前例もなくゼロからのスタートだったが、4年間で軌道に乗せたことなど、これまでの4年間の我々の死闘をご想像いただき、ご理解いただくことを切に願う。

その上で、滞在スタジオの稼働率は十分に上がり、滞在するアーティストの満足、充実度も高く、市民への周知も進んできているこのよい流れをキープするため、活動内容の定着、そしてこれまでと新規の利用者により親近感を持ってもらうために、2014 年から取り組んできた企画・活動内容を強化、更新、改善しながら 2018 年度も同じコンテンツへの取り組みを繰り返し行う。イベント/プログラム企画の実施は、事業運営費を 2014 年度から継続的に「アートによる地域活性化事業(札幌市)補助金」を充てて実施してきている。そのため、この提案書でも契約予算外ではあるが、年間を通じたイベント/プログラム企画の提案として記載することとした。

過去の実績をふまえた今後のさっぽろ天神山アートスタイジオのポテンシャルとして以下強化する項目が考えられる。

・AIR 拠点として国内外において独自性確率と最優良 AIR 拠点評価を獲得
・札幌市内での公的で、唯一の国際的な文化芸術拠点であり、公民の文化芸術事業のインフラとハブ機能を発揮
・多様なネットワーク構築と可視化
・周辺地域との共同プロジェクトの実現
・北海道他地域との連動
・札幌市の国際戦略(創造都市、姉妹都市、冬の都市市長会議など)との連動
・オリンピックイヤーの文化プログラム企画・運営実施
・国の観光指針(インバウンドを地方へ)に沿う国・地域との交流
・「事業計画と戦略設計」+「アーカイヴと事業成果と評価指標つくり」など AIR 事業フォーマットつくり

ついては、プレゼンス向上と実験的プロジェクトの実施のために、札幌市以外の事業資金としての補助金確保を目標としたい。事業資金申請を予定しているのは、下記提案項目(2)の(ア)と(イ)に該当する事業企画であり、申請先は文化庁、国際交流基金などを予定しており、合計 400 万程度の確保を計画している。

その他、札幌市の国際ネットワーク構築に貢献する分野での活動、札幌国際芸術祭 2020 に関連する事業への協力については、各部署よりリクエストがあれば別途予算にて適宜相談に応じ、企画運営・コーディネート業務を実施する。

例)

・冬季オリンピック誘致の戦略の一環としての事業企画運営・コーディネート業務
・創造都市ネットワークの国際プログラム企画運営、コレスポンデンス及びコーディネート業務
・2020 年東京オリンピック開催に乗じたインバウンド、カルチュラルプログラム実施強化のための提案策定協力や事業企画運営、コレスポンデンス及びコーディネート業務

【1】アーティスト等の滞在制作活動の誘致及び支援に関する企画

1)公式ホームページに「アーティスト・イン・レジデンス拠点としての天神山アートスタジオ(AIR ページ)」を増設

プロオグラムの種類、申請方法、受けることのできるサポートなど、滞在を検討するアーティストが知りたい情報を網羅的に掲載する。(2015 年度に製作した施設パンフのディレクションに沿う)

2)国際的な AIR ポータルサイトへの施設及びプログラム情報登録

2014 年度から継続的に行っているものの、情報ポータルは年々増えているので引き続き調査し、登録を行う。

3)国際公募プログラムの実施

(*「【2】-イ」 イベント/プログラム 2)国際公募プログラム)の内容と連動)

施設や存在の周知を目的(選考委員、国際的なアーティストを選出することで、レジデンスとしての方向性をアーティストたちに示すことができ、成果から運営の質や能力の周知にもつながっている。

4)アートとリサーチセンターにおける調査研究データベース構築活動

AIR 拠点としての信頼度、滞在アーティストなどへの滞在中の活動利便性を促進するための機能として発展させる。

(リサーチとサイトスペシフィック・プロジェクト成立のために、さっぽろ天神山アートスタジオの国際的な独自性確率に向けて)過去に滞在したアーティストのリサーチやプロジェクトから次のアーティストの活動にとって有益になるであろう情報を回収し、情報の閲覧を共有する、またアーティストのリサーチに役立つ道内のほか組織・団体・事業や活動のデータベースやリソースにリンクする「北海道・札幌をリサーチするためのポータルサイト(メタ・データベース)」を構築する。

また、ローカルの美術史に組み込まれにくい「よそ者」の活動記録をとりまとめるリサーチ・プロジェクトを同時進行。そこでは、地域における国際芸術祭のマッピングを試みるための北海道美術史における「もの・こと・ひと」情報の可視化を行う。

http://aarc.jp

5)市内文化芸術事業運営者への営業

＜連携先の団体及び事業の想定(2017 年度までの実績含む)＞

公益財団法人北海道文化財団、公益財団法人北海道演劇財団、NPO 法人コンカリーニョ、NPO 法人 S-AIR
札幌演劇シーズン、札幌国際芸術祭(SIAF ラボ事業含む)、札幌アーティスト・イン・スクール事業「おとどけアート」
さっぽろアートステージ、カルチャーナイト、・札幌市民交流プラザなど、札幌市の主催、関連する文化芸術事業全般。
民間ギャラリーや事業

6)国内外アート拠点、AIR 事業運営者、海外在日大使館・文化機関、大学とのネットワーク構築/exchange など

＜2014-2017 年度実績＞

中国/深圳、台湾/淡水、台湾/台南、オーストラリア/メルボルン、韓国/ソウル
日本/MOVE ARTS JAPAN、日本/NPO 法人 S-AIR

＜2018 年以降の予定(入れ替え・追加分のみ＞

アメリカ/ポートランド、イラン/テヘラン、台湾/台東、ドイツ/ミュンヘン

7)市内の工房、アトリエとの連携

滞在するアーティストなどの制作場所と技術提携などの協力関係を構築する
・札幌市立大学工房など

8)そのほか、

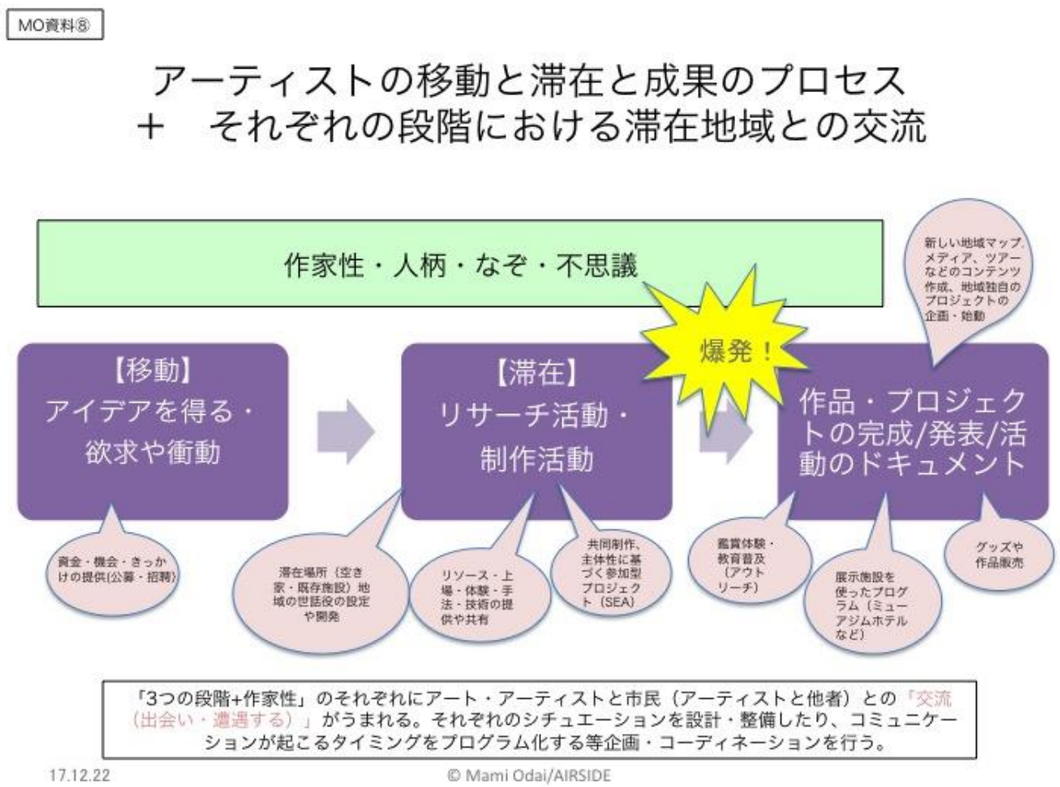
・国内外で AIR ディレクターがアーティストにとっての AIR 活用方法について、また天神山アートスタジオに関する講演、プレゼンを行う活動の実施。(2014 年度から現在まで 24 件実施)

（5）提案内容-3

【2-1】市民がアーティスト等と交流する機会及び芸術作品に触れる機会に関する企画

アーティスト・イン・レジデンス拠点であることを特徴づけるのが、従来また市内ほかの文化芸術施設とは異なる「アートと市民との関係性」を用いる。それは、場と機会がアート/アーティストを鑑賞するものではなく、アート/アーティストも市民もこの「場と機会」に等しく参加する、という概念である。管理者である我々も同様に管理者の役割でもって『参加する』のである。このふるまいや考えかたを基本に「しくみ・イベント」を企画する。

このことから、運営を含めたすべての活動をパブリックアートプロジェクトとして企画し、運営（活動）を行っている。ここでは、行政＝公共ではなく、「公共とはなにか？」を考え実践する場であるとともに、アーティストの創造には「自由と自律性」が必要であるため、アーティスト・イン・レジデンス運営ではそのことが求められる。そこから発展的に、さっぽろ天神山アートスタジオでは、自由と自律性をすべての人が体験できる機会を提供するものとして、まずは創造的活動のための精神的、外因的コンディションを、アーティスト、市民が体験するということが「日常」であるように丁寧に積み重ねる。



ア）市民とアーティストなどが交流を行える仕組みやイベントの企画・実施（内容、頻度、広報等）

▪しくみ

・パブリックスペースプロジェクト

館内 IF 部分（展示スペース・交流サロン・談話交流スペース及廊下、テラス）、建物敷地内テラス、ガーデンスペース、中庭の活用と整備を行うなど、市民が施設に通い館内での滞留時間を延ばす工夫として実施。パブリックアートプロジェクトのしかけとして、また副次的に施設利用、とくに交流スタジオの利用促進につなげる目的としても実施。

ー庭プロジェクト（2014 年度のアーティストのプロジェクトを引き継ぎ、市民による施設埋め込みを畑にする試み。）

ー楽器の配置

ー卓球台の配置と貸し出しサービス

ー公園遊びのための備品貸し出しサービス（そり、バトミントン、ピクニックシート）

ー滞在アーティストなどによる寄贈作品の一時的な設置

ー図書閲覧と貸し出しサービス

ー和室利用サービス

ーエントランス黒板のインフォメーション作成

ーそのほか、関内、公園利用者のための問い合わせや緊急対応全般

□イベント/プログラム

1）天神山文化祭

内容：地域のまちづくり会「いきいき南平岸」との合同企画。近隣住民によるキャンドル、木工ワークショップ、近隣小学生の作品展示、南平岸地区特産品紹介、天神山の歴史展示のほか、アーティストの制作スタジオの公開やトークなど。様々な催しを行い多くの人が天神山アートスタジオを訪れる機会を作る。

頻度：年 1 回（9 月頃）、広報：天神山アートスタジオ公式 HP、近隣地下鉄駅の掲示板、回覧板の挟み込み、イベント掲載サイトでの掲載、北海道新聞など

2）近隣地域へのアーティストと活動の実施（南平岸地区、澄川地区、アーティスト・イン・スクール事業との連携）

内容：アーティストが近隣地域の施設や人を訪れ、地域の歴史や札幌について市民から直接聞き取りをしたり、交流を深める機会。

頻度：滞在アーティスト等との相談のうえ随時、広報：天神山アートスタジオ公式 HP、イベント掲載サイトでの掲載

3）アートアンドブレックファーストデー

内容：滞在アーティストと市民とが”朝食会”という場に集まり、食事を一緒にしながらアーティストの作品や制作についてを話す機会。また市民から札幌・北海道について教えてもらう制作リサーチの場にもなる。

＊Art & Breakfast は美術作家の三田村光土里さんが 2006 年から世界各国で継続して行なっている滞在制作アートプロジェクトです。2014 年からは世界中の様々な場所で Art & Breakfast Day が開催されています。

頻度：毎月 1 回（第 3 日曜日）、広報：天神山アートスタジオ公式 HP、イベント掲載サイトでの掲載など

広報：天神山アートスタジオ公式 HP、イベント掲載サイトでの掲載など

（5）提案内容-4

【2-2】市民がアーティスト等と交流する機会及び芸術作品に触れる機会に関する企画

イ）市民が芸術作品に触れる仕組みやイベントの企画・実施（内容、頻度、広報等）

▪イベント/プログラム

1）アートキャンプ

内容：小中学校の夏休み期間に天神山あースタジオにこどもたちや親子連れが集まり、アーティストと一緒に作品制作を行う。交流スタジオやパブリックスペースで一般の来館者にも開けたオープンなイベントとして開催する。

頻度：年 1 回（7～8 月頃）、広報：天神山アートスタジオ公式 HP、札幌市内の全小学校へのチラシ配布、近隣地下鉄駅の掲示板、回覧板の挟み込み、イベント掲載サイトでの掲載、北海道新聞など

2）国際公募プログラム

内容：国際公募を行い選出されたアーティストを招聘、それぞれの作品制作やリサーチをもとにしたプロジェクトを展開する。期間中にはアーティストトークや市民参加の作品制作などを行い、滞在成果発表の際にはギャラリーツアー、パフォーマンス、交流会を行う。

頻度：年 1 回（11 月～2 月頃）、広報：天神山アートスタジオ公式 HP、近隣地下鉄駅の掲示板、回覧板の挟み込み、イベント掲載サイトでの掲載、北海道新聞、ラジオでの宣伝など、応募者確保のための広報は FB 、国内外 AIR 情報ポータル、過去の滞在者やアート関係者への E メール配信など

3）滞在アーティストによる施設を活用したプログラムの実施

内容：滞在アーティストがさっぽろ天神山アートスタジオの機能を活かし、滞在期間中に作品展示やパフォーマンス、アーティストーク、ワークショップなどのプログラムを主体的に実施する。また、より質の高い表現につなげるためのサポートを行う。滞在するアーティストとの協力で行う場合は、運営者との交換経済として予算はつけずに実施する・

頻度：予算付きは、年 6 回程度。予算なしは、年 12-15 回程度。

広報：天神山アートスタジオ公式 HP、イベント掲載サイトでの掲載、北海道新聞、ラジオでの宣伝など

4）滞在アーティストの市内ほか施設と事業での発表や活動を見学するツアー

内容：滞在アーティストと市民の交流を促進するため、市民がアーティストの活動場所を訪れ制作の様子を間近体験する。

頻度：年 5 回程度

広報：天神山アートスタジオ公式 HP、イベント掲載サイトでの掲載

【3】広報

施設周知のための広報と、活動（しくみ）・イベント/プログラムなど企画の集客と周知のための広報と二つのグループで広報活動を行う。ドキュメント全般は広報のリソースともなるため、2014 年度より、ドキュメントとアーカイヴ活動も同時進行で行っている。手法と戦略のブレイクダウンは以下の通り。

<u>【活動・イベントの対象/範囲について】→企画ごとに対象属性/活動範囲を明確にして、それらに応じた企画内容と広報計画を組み立てる</u>

1.市民（①こども②成人③就労世代④高齢者など細分化する）
｜＿近隣住民（豊平区、南区）
｜＿文化芸術に関心のある市民
｜＿文化芸術にはさほど関心がないが、「自然・公園散策」「教育」「国際交流」などに関心がある市民
｜＿文化芸術活動を行う、またはこの分野に関連している市民
｜＿こども（①未就学児②低学年小学生③高学年小学生④中学生⑤高校生/貧困家庭児童等細分化する）
　｜＿近隣エリアのこども
　｜＿札幌市内（全域）のこども
2）国内アート関係者、研究者
3）国外アート関係者、研究者

<u>【広報（情報発信）の連動について】→プログラム/活動グループごとで使うツールを決める（以下、ツール一覧）</u>

1） 天神山 AS ウエブサイト（札幌市）
2） Facebook（by AIS プランニング）
3） instagram（by AIS プランニング）
4） 館内ポスターとサイン
5） 天神山緑地内看板
6） 広報さっぽろ（イベントページ）
7） 庁内ホームページ（ブログ転載、寄稿）
8） アート情報ポータルサイト(Art Alert, 大通情報ステーション)情報登録
9） 大通情報ステーションチラシ置き
10）国内外 AIR ポータルサイト情報登録
11）プレスリリース →取材、資料提供などの媒体露出成果ファイリング
12）E メール送信（AIS メーリングリスト、国内外アート機関リスト、過去の利用者リスト）
13）ポスター/フライヤー作成 ポスター/フライヤー配布 市営地下鉄駅貼り

<u>【活動アーカイヴについて】→ウエブサイトとファイリング、報告書作成、ふりかえり/事業評価に反映</u>

①利用手続き用書類から、資料を抽出しアーカイヴデータとして記録保存する。

1. 滞在アーティスト
1）資料アーカイヴ →申請書に添付されたポートフォリオの出力をファイリング
2）滞在記録 →ウエブサイト（①レジデンスアーティスト②ブログ：滞在者紹介）、記録集に反映

2. 利用状況データ
1）滞在スタジオ・交流スタジオ稼働率・年次推移
2）滞在スタジオ利用者（性別、目的、国地域、活動分野、リピート率、招聘元リスト、参加事業リスト）
3）年次イベント記録（時系列でのリスト化、イベントごとに制作物をフォルダ保存）

②館内の活動・事業の記録、滞在アーティストの滞在中の活動を記録保存する。
1）画像（①日常風景②交流風景③イベント記録）→記録画像ファイルに付とイベント名をフォルダ化
2）動画（①イベント記録②長期滞在者インタビュー）→youtube にアップロード（公開/非公開設定）
3）ブログでリポートを作成し公開する

（5）提案内容-5

【4】運営体制

2014年度～2017年度にかけての管理運営において得られた成果や課題を基に、安定的な施設管理運営業務を徹底し、交流イベント等の企画運営のクオリティーを支える体制を構築します。

また、様々な市民やアート関係者が利用する施設の特徴を踏まえ、札幌市の所管部局との情報共有と意見交換を行ない適切且つ柔軟な業務の遂行を前提に、これまでの芸術文化事業で培ったコーディネーション力を活かした弊社独自の管理運営体制を維持します。

【重点項目】

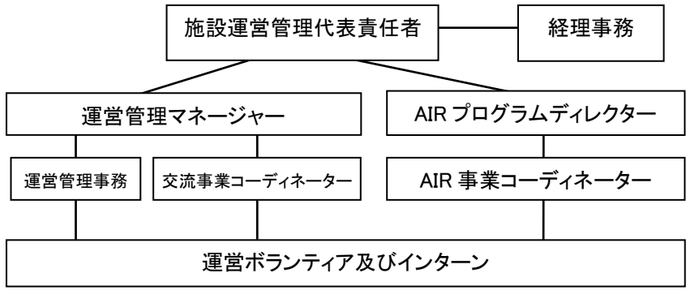
① 施設管理運営における事務作業マニュアルを確立し、安定的な施設管理運営業務の遂行と、従事者同士のスムーズな業務の引き継ぎが行なわれる連絡体制を構築、維持する。

② これまでの事業で培ったノウハウを習得しているコーディネーション力に長けた人材を常時配置し、施設利用者や地域住民との積極的なコミュニケーションを図り、滞在者と市民、そして市民同士の繋ぎ手となる体制を維持する

③ ボランティアやインターンを積極的に受け入れることにより、滞在制作のサポートやイベント運営のスキルを身につけ、札幌市における芸術文化事業の発展に寄与する人材育成の一端を担う。

【天神山アートスタジオでの人員と取組体制】

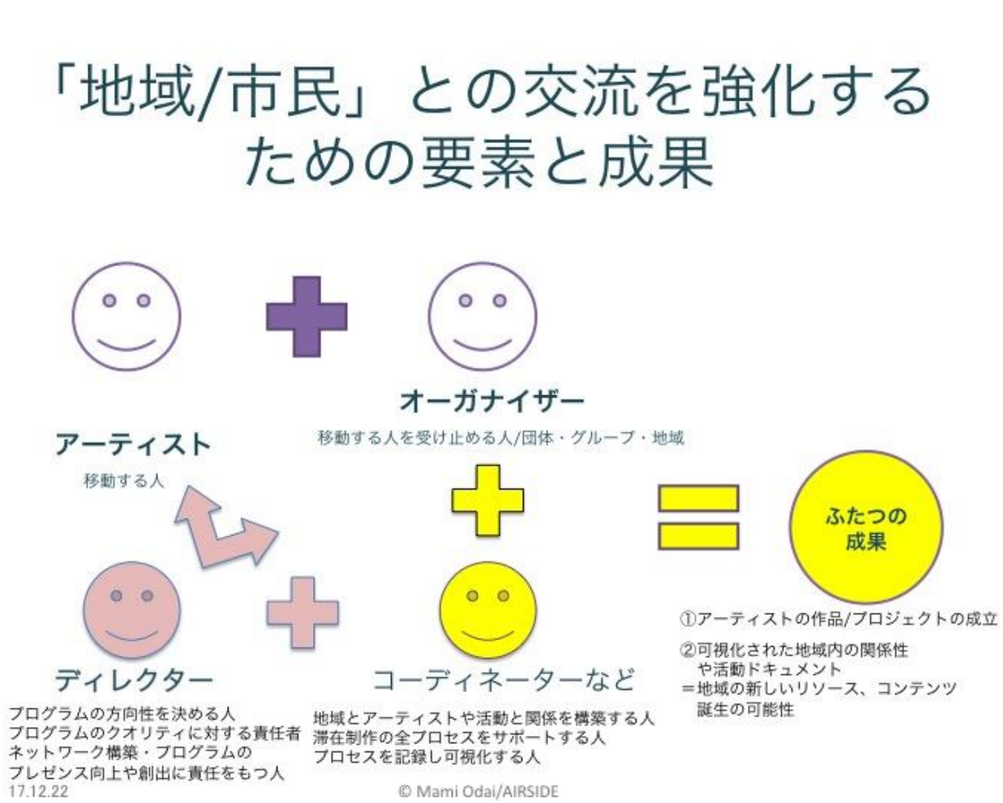
・施設運営管理代表責任者　1名
・プログラムディレクター　1名
・施設運営管理マネージャー　1名
・施設運営管理事務　1名
・交流事業コーディネーター　1名
・AIR 事業コーディネーター　2～4 名
・経理事務　1 名



【コーディネーター及びディレクターの役割と必要性】

＜AIS プランニング・コーディネーター＞

市内、道内、日本全国でこどもとアーティストが出会うためのプログラム「アーティスト・イン・スクール」＊札幌市では「おとどけアート」を主に企画運営している団体であり、この現場で経験を積んだコーディネーターたち。コーディネーターはよりよいまちづくりを目的に学校やこどもたち、地域でのプロジェクトやプログラムで、人と人をつなぐ仕事をしています。

＜AIR ディレクター＞

コーディネーターとともに、天神山アートスタジオでの施設管理の方法を構築する。また、場における活動の内容や、生活の営みの雰囲気や方向性について提案し、監督を行うのは、国内外のレジデンスの研究を行い、知見に基づきいくつもの AIR プログラムの事業立ち上げを設計したり、アーティストとともに地域活性化事業にとりくむアートプロジェクトなどの企画運営経験を持つ専門家です。場とミッションと関わる全ての人の可能性を読んで事業設計を行い、監督しています。